菊池市で暮らす外国人が参加する主体となって企画・運営を行う「せかいかいぎ」のメンバーたち

合同特集 Kumamoto Prefecture Public Relations Association

熊本県市町村広報担当者による
合同特集

多文化共生の現在地

昨年6月末の時点で日本に在留する外国人は過去最多320万人。熊本でも2万人を超え、10年前と比べて2倍以上に増加しています。

今回は、県内で進む地域に暮らす外国人住民との交流や、新たな多文化共生の取り組みを紹介します。

他国の文化に触れる

「はい、きくち～」。明るい掛け声とともに笑顔で写真に写るのは、菊池市在住の外国人を中心としたコミュニティー「せかいかいぎ」のメンバーたち。この日は菊池女子高校の文化祭に出店し、それぞれの国の郷土料理を販売しました。

特にベトナム料理の揚げ春巻きが好評で、約1時間後には完売。「他国の文化に触れる良い機会だった」と話す来場者もいて、異文化への理解が少しずつ進んでいます。

菊池女子高校の文化祭に出店した「せかいかいぎ」

誰一人取り残さないために

「菊池市中央図書館では、持続可能な開発目標（SDGs）が掲げる『誰一人取り残さない』という理念に基づき、多文化共生事業に取り組んでいます」と話すのは、図書館専門委員の小堀久男（こぼりひさお）さん。菊池市内の外国人人口は増え続けており、昨年末は約1200人。その多くは、アジア圏域からの技能実習生です。

菊池市立図書館専門委員
小堀久男（こぼりひさお）さん

同図書館では、雇用側と実習生側の双方から「日本語のコミュニケーションが難しい」という声を聞き、市内在住外国人向けの「日本語教室」を令和2年に開設しました。

その後も地域交流を中心とした「日本語カフェ」や外国人主体でイベントを企画・運営する「せかいかいぎ」を発足し、多文化共生サービスを進めています。

「地元の人からは『国籍に関係なくその人自身と接するようになった』という声も聞きます」と小堀さん。共に考え尊重しながら、多文化共生の輪を広げています。

増加する外国人労働者

日本に住む外国人は年々増加傾向です。熊本県も例外ではなく、県内の在留外国人は令和5年6月末時点で2万2318人と過去最多を更新。10年前と比べ2倍以上に増えました。

国籍別ではベトナムが最も多く、中国、フィリピンと続きます。外国人労働者が多く、技能実習生の増加や台湾積体電路製造（TSMC）の進出などの影響から今後も増加が見込まれます。

各地で進む多文化共生

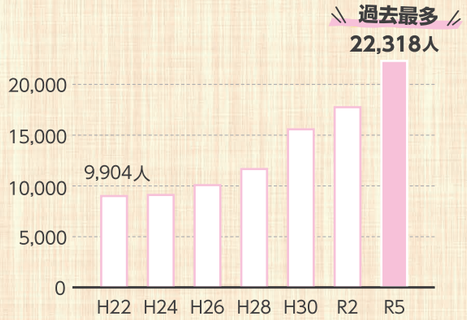
県内では増え続ける外国人と共に多文化共生を進める動きが活発になっています。国際化を進めるため、八代市では令和3年に「やつしろ国際協会」を設立。阿蘇市や合志市でも令和5年に「多文化共生連絡協議会」を発足し、外国人と日本人が豊かに共生できる地域を目指しています。

県が公表した令和5年度の県民アンケートの結果でも多文化共生を前向きにとらえる人が多く、半数を超える52・8パーセントの人が外国人とともに地域で暮らす「多文化共生」を「望ましい」「やや望ましい」と回答しています。

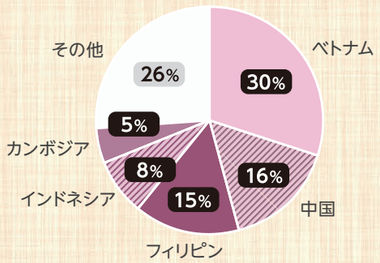
しかし「あまり望ましくない」「望ましくない」と回答した人も8・8パーセントいて、その理由の多くは「治安の悪化」や「文化の違いから起こるトラブルが心配」などといったものでした。

私たち日本人を含め、みんなが地域で安心して暮らせる環境を整えるためには、一丸となって解決に取り組んでいく必要があります。

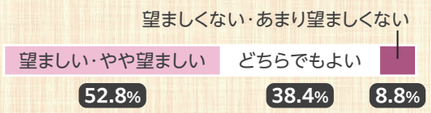
DATA1 熊本県内で暮らす外国人の数はどれくらい増えているの？



DATA2 どんな国から来ているの？



DATA3 多文化共生社会への県民の意識は？



INTERVIEW 多文化共生に向けて必要なこと

出生率の低下で全国的に外国人労働者の需要が高まる中、県内でも外国人との多文化共生社会を目指す努力が求められています。

多文化共生社会は、法整備などの公共性、そして周囲の人々とのつながりで生まれる親密性で成り立つもの。日本へやって来て、言葉が通じない中で仕事をし、孤独を感じている外国人をケアするためには、その両方を充実させていく必要があります。

しかし、現状は外国人労働者が、まるで透明人間のように認識されてしまっています。外国人労働者は社会のさまざまな場所で仕事を担い、彼らがいなければ私たちは生活できないほどです。

そんな外国人労働者を、社会の一部を担う大事な存在で一人の人間として認識し、心を寄せることから共生は始まります。県民一人一人がそれを意識し実践すればお互いに成長でき、生活をより豊かにできます。

熊本学園大学 外国語学部
申 明直（シン ミョンジク）教授

広がる、多文化共生の輪

「見た目が違うから…」「言葉が通じないから…」。このような理由で外国人と関わることを避けていませんか。きっとそれは相手も同じかもしれません。大切なことはお互いに歩み寄ることです。

多文化共生社会の実現に向けて取り組む2団体を取材しました。

長洲町

防災マップを見ながら避難経路を確認

長洲みんなでにほんごひろば

「やさしい日本語」による対話が必要

長洲町の外国人人口は総人口の約5パーセントで、そのうち約90パーセントは技能実習や特定技能の在留資格を持つ人です。長洲町では、外国人と日本人が日本語で交流する「長洲みんなでにほんごひろば」が開催され、長洲町地域日本語教室等サポーターとして参加しています。

昨年はJICA（国際協力機構）熊本との共同事業で「やさしい日本語」を使った外国人向けの防災イベントを実施。参加者の多くが避難情報を理解できたようでした。

外国人との交流時には先入観を捨て、相手に興味を持つことが重要です。「やさしい日本語」を使って話すことが、お互いの理解を深める鍵となるのではないでしょうか。

リーダー
竹本 薫さん
（長洲町）

水俣市

地域の和太鼓演奏グループと一緒に演奏体験

みなもんくらぶ

外国人が地域になじむ手助けをしたい

水俣市では「みなもんくらぶ」を毎月1回実施しています。市内で生活する外国人技能実習生が日本人ボランティアサポーターと一緒に、体験活動を通して日本語や地域での暮らし方などを学び、地域になじんで生活していくことが目的です。日本語や日本の文化について「失敗しても大丈夫」と前向きな気持ちで安心して学べる場所を目指しています。

参加者はそれぞれ国籍も違えば文化も違います。しかし、日本語をもっと話せるようになり、水俣市での生活を楽しくしたい気持ちは同じです。これからも地域住民との交流を通して外国人たちがうまく地域で生活できるサポートをしていきます。

水俣市国際交流推進員
ブレスリン・ジェフリーさん
（オーストラリア）

やさしい日本語に言い換えると…

「やさしい日本語」には「こうすれば必ず理解してもらえる」という決まった答えはありません。相手を思いやり、易しい言葉と「分かりやすく伝えよう」とする優しい気持ちで使ってみましょう。

- CASE1 出身はどちらですか？ → あなたはどの国から来ましたか？
- CASE2 飲食はご遠慮ください → 飲んだり食べたりしないでください
- CASE3 貴重品は自己管理してください → 大事なものは自分で持っていてください

外国人も日本人も同じ社会を築いていく仲間

熊本市国際交流振興事業団では、国際交流イベントや講座の開催などを通じて、多文化共生社会を目指しています。事務局長を務める勝谷知美さんに話を聞きました。

（一財）熊本市国際交流振興事業団
勝谷知美 事務局長

理解の一歩は知ることから

私たちは、自治体の外国人向け日本語教室や協議会立ち上げの支援などをしていますが、イベントや日本語教室はあくまで〝きっかけ〟です。大切なのは参加者の外国人と日本人がつながること。つながりができれば、次は地域のイベントに参加したり、悩みごとを相談したり、災害時に助け合うことができるようになり共生社会に近づいていきます。

日本人向けの講座では、その地域にどんな国の人がどれくらいいるのか、どんな文化や宗教があるのかなどを伝えています。知ることは理解への第一歩。知らない文化だからと恐れたり偏見を持ったりするのではなく、正しく知り理解を深めることが大切です。

熊本県に住む仲間として

外国人や外国にルーツを持つ人たちが熊本に来て暮らし始めたとき、言葉や文化の違いはつきもの。一度の説明で伝わらないときは、言い方や説明を変えてみる「やさしい日本語」で話しかける、翻訳アプリを活用するなどの工夫が必要です。

県内の人口は減少していて、外国人が不足する働き手を担っている一面もあります。〝同じ地域に住む対等な住民であり、お互いが同じ社会をつくっていく仲間〟として接し、良い関係を築いていってほしいと思います。

近くに住んでいる外国人がいたら、ぜひあいさつをしてみてください。近所付き合いと同じで、あいさつや世間話から交流が始まりますよ。

そして、何気ない会話の中に隠れている外国人の困りごとを見つけたら、県や自治体・私たちに相談してください。

異文化理解講座でメキシコの伝統文化「死者の日」を学ぶ子どもたち

外国人のための相談窓口

熊本市外国人総合相談プラザ
でんわ ☎096(359)4995
ばしょ 熊本市国際交流会館2階

熊本県外国人サポートセンター
でんわ ☎080(4275)4489
ばしょ 県庁本館8階

WHAT IS やさしい日本語

簡単な単語や文法を使用するなど、日本語が得意ではない外国人住民でも理解できるように配慮した日本語のこと。

阪神・淡路大震災のときに、外国人住民に避難情報や支援情報を十分に届けられなかったことを教訓に「やさしい日本語」が広がっていきました。

一番の心得は「はさみの法則」

1. 「はっきり言う」 口をあけて発音する
2. 「さいごまで言う」 文末まできちんと話す
3. 「みじかく言う」 短く簡潔に伝える